

# 審査における課題及び次回イベント時 への申し送り事項(暫定案)

2022年8月1日  
プログラム委員会

(igf2021:826)と同じ内容です。

(次回検討すべき主体を以下により示しました:  
KT:活発化チーム、PC:プログラム委員会、RC:審査委員会)

## 1. 審査に要する期間について

- 1-1 セッション提案の公募時期を早め、提案内容を深める(含:TBDをなくす)とともに、提案の審査とプログラム構成検討をもう少し念入りにやれるようにするのがよい。==>KT
- 1-2 各審査員の個別評価が遅れ、審査委員間での議論が1.5時間しか取れず、都合が悪い審査員は議論に参加できなかった。==>RC

## 2. 将来への布石となるプログラムとするという点について ==>KT

将来のIGF(直近ではたとえばIGF2023)での日本の柱を何にするのかを考慮した上でプログラム構成するのがよい。テーマセッションも、その柱に近いものを選ぶのがよい。

## 3. 参加者の想定について ==>KT+PC

全体として参加者がどういう人たちなのか(例:IGF初心者とベテラン)によって評価が変わりうるので、その想定が必要と思われる。

## 4. 提案者の多様性について ==>KT+PC

IGF的なイベントの経験者が登壇するパネルの提案がほとんどであり、内輪感があるイベントになりかねないという懸念がある。

## 5. 提案の深さについて ==>PC

提案書のボリュームがないので、セッションのイメージがわからない。もっと記述してもらうべき。セッションの60分での議論方法とかも書いてもらった方がいい。  
(採用の競争率との関係もあり、どれだけ書いてもらうかの設計が難しいという点は理解するが)

## 6. 評価軸について ==>PC

- 6-1 「全体テーマとの関連性」という評価項目があるのはよかった。
- 6-2 「IGF活動のすそ野を広げる提案であるか？」という評価軸もあった方がいい。たとえば、セッションで刺激を受けて、その後も参加し続けてくれる人を増やすようなセッションがより採用される審査の仕組みが作れるといい。
- 6-3 総合評価点にあまり差がつかない。もっと差がつく点数配分とか、総合点がよくてもどれかの評価項目の点数があまりに低いとダメとか、なんらかのメリハリがつくような工夫があった方がいい。

## 7. 審査委員数について ==>PC

審査委員数が少ないと、審査委員と提案者/登壇者の重なりが大きくなる傾向になり、評価しづらい、とか、評価に偏りが出る可能性が増える。特に、提案数が少ないとその傾向が顕著になる。